

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号471

発生場所

洗面所・浴室

精神・意識障害の有無

リスク

発生場所（その他）

なし

B. 物の性能のリスク

関連したもの

シャワー

発生内容の分類

怪我・火傷

発生内容

機械浴シャワーでの熱傷インシデント。

概要

ハバード浴開始前に設定温度が40度になっていることを確認し、さらに素手で適温を確認し、ハバード浴を開始した。洗髪中に患者から「熱い」という訴えがあり設定温度を下げたが、湯温が上昇してしまった。すぐに患者のハバード浴を中止し、全身の観察を行なったが、熱傷までには至らなかった。原因を調査したところ、給水バルブが閉められていたことにより、熱湯のみが注水されていたことが判明した。

要因

- ・給水バルブは普段開閉することをしていなかったため、使用前の点検箇所に含まれていなかった。
- ・シャワー開始前に湯温は確認したが、温まる時間を見越して出しっぱなしにしなかったため、適温だと判断した。

対策

- ・始業前点検の点検表を作成し、以下を統一して行なうこととした。
- ①給湯・給水バルブの開栓確認。
- ②5分間お湯を出しっぱなしにする。
- ③温度計での湯温を確認。
- ④素手で湯温を確認。

参照